

放浪世界地図と一覧表



番号	訪問国	訪問年	日数
①	オーストラリア	2009	180
②	フィリピン	2010	70
③	ミャンマー、タイ、ラオス	2011	77
④	ロシア（シベリア鉄道）、イギリス、アイルランド	2011	90
⑤	韓国（釜山・大邱・公州・扶余）	2012	12
⑥	インドネシア（ジャワ島、バリ島、ニューギニア島）	2012	60
⑦	中国（空海・最澄の足跡巡り、梅里雪山）	2012	85
⑧	台湾、中国（福建省・洞庭湖）	2013	62
⑨	ドイツ、ドナウ川を河口まで	2013	65
⑩	インド、バングラデシュ、ガンジス川を河口まで	2013	55
⑪	トルコ、コーカサス3国、ウズベキスタン、タジキスタン	2014	70
⑫	中国（西域）、カザフスタン、キルギス、パキスタン	2014	80
⑬	エジプト、スーダン、レバノン、イスラエル	2015	86
⑭	シベリア、旧満州、北朝鮮、モンゴル、韓国	2015	99
⑮	エチオピア、ジブチ、ケニア、タンザニア、ウガンダ、ルワンダ	2016	85
⑯	ロシア、ウクライナ、バルト3国、フィンランド、ポーランド、チェコ	2016	96
⑰	ギリシャ、キプロス、アルバニア、旧ユーゴ2ヶ国、イタリア、チュニジア	2017	96
⑱	チベット（カイラス山巡礼）	2017	19
⑲	インド（ラダック地方）	2017	36
⑳	ネパール、インド（ダーージリン）	2017	32
㉑	ベトナム	2017	14
㉒	フランス、モロッコ、スペイン、ポルトガル	2018	77
㉓	オランダ、ベルギー、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、ノルウェー	2018	87
合計	訪問国数 69	訪問日数合計	1,633日

◆ギニア島西半分（バプア）に行った事も思い出です。
 ◆大河を見る事も好きで、ドナウ川とガンジス川を源流から河口まで辿りました(⑨⑩)。
 ◆ドナウ川の源流はドイツの所謂「黒い森」にあります。

「まだまだ現役」 世界放浪ひとり旅 ～野垂れ死んで本望～

瀬川英二 (高16回)

2007年に61才で引退後、「ピース・ボート」という世界を1周する船に2回乗りました。

1回の航海で20か国余り訪問し、個人では行き難い場所（スエズ運河、パナマ運河、喜望峰、イースター島、マゼラン海峡、南極）へも行けたのですが、訪問地は港中心で内陸まではなかなか行けません。それでじっくり滞在できる個人旅行を2009年秋から始めました。

「1年の中、半年までなら海外放浪しても良い」と許してくれた寛大な家内に感謝です。その代わり旅行費用は節約し、普通のツアーの3分の1程度に抑えています。貧乏旅行も、いや貧乏旅行こそ楽しいのです。

以下、77ページの放浪世界地図と一覧表をご覧ください。番号順にご説明します。

◆最初の2回（オーストラリアとフィリピン）は、英会



●せがわ・えいじ
 喬木村出身。早稲田大学理工学部数学科卒業、ソフトウエア会社に就職。42才の時、独立して株式会社パスカリアを設立し社長就任。川崎市多摩区在住。
 連絡先 / seigwa1946@yahoo.co.jp または Facebook

話習得を兼ねていました。オーストラリアではパーマカルチャー農法（有機農法の一つ）の農家に5か月滞在し、無償で働く代わりに食事と宿舎を提供して貰いました。誤算だったのは「農作業は黙々と働く」ことでした。英会話の練習にはならなかったのです。それでフィリピンへ行き、セブ島の英会話学校に2か月弱通いました。

◆③④⑧は、仏教が中心です。当時は五木寛之の『百寺巡礼』が流行っていて触発されたのです。

タイのお寺で瞑想修行を1週間行っていた時に東日本大地震が起きました。外界との接触を絶っていた何も知らない私に、坊さんが心配顔で知らせてくれた事もありました。

飯田高校の先輩で朝日新聞社の本多勝一（高2回）さんの記事『ニューギニア高地人』を思い出して、ニュー



タンザニア ラエトリの人類足跡発掘現場にて (2016年3月)

ローマ帝国に伝わった以降の世界宗教になったキリスト教を私は良しとしないのですが、イエスは好きです。

◆「アフリカで誕生した人類が日本人になるまでを知りたい」というのが、私の世界放浪の動機でした。⑮では、人類起源の場所である東アフリカの大地溝帯を回りました。エチオピアでは、1974年に発見された320万年前の古人類で「ルーシー」と名付けられた化石の発掘現場に立つことができました。

タンザニアではラエトリという場所で1976年に発見された360万年前の人類足跡化石の発掘現場へ行くことができました。

この場所は、「グレートジャーニー」の関野吉晴さんがその終着地点とした場所でもあります。

◆チベット仏教徒の聖山であるカイラス山を巡礼しました。インドのラダック地方、ネパールへも⑱⑲⑳。

そこからオーストリア・ハンガリー・セルビア・ブルガリア・ルーマニアを通過して黒海に注いでいるのです。西欧から東欧に移るにつれ人々は素朴になり、宗教色が強くなるのです。ドナウ・デルタはペリカンなどの野鳥にとつての楽園でした。

ガンジス川はヒンズー教の聖河であると同時に、ヒマラヤ山脈に降る全ての(チベット側も含めて)雨を集める大河でした。河口付近での川幅は乾季でさえ5kmもあるのです。そのデルタにできたバングラデッシュは堆積した泥・土の上にあり「石の無い国」で驚きました。

◆トルコ旅行から帰った家内が「トルコ人は、西洋人風の風貌だけど、かつてはずっと東に住んでいて東洋人だったらしい」と私に話したのです。そこから私の好奇心に火が付きまして。

トルコ人の原郷(元々の出身地)はモンゴル高原にある事、そこから定住のため西進して中央アジアのアーリア人と接触・混血しつつ徐々に西洋化し、ギリシャ人が住んでいた現トルコ半島に住み着いたことで今のようない風貌になった事がわかったのです。それも、⑪⑫の中央アジアへの旅からでした。

◆⑩では、釈迦の生涯も辿りました。6年間の厳しい修行を行ったマハーカラ山、覚醒したブツダガヤ、初めて説法されたサルナート、80才になって「最後の旅」へと出発されたラージギル、そして死地であるクシナガラです。私は「死後の世界」の存在を信じることができませんで仏教徒にはなれませんが、釈迦は好きです。



中国西安青龍寺の「恵果から灌頂を受ける空海」像前にて (2012年10月)

「イエス・キリストと釈迦は似ている」と私が思うようになったのは、⑬のイスラエルからです。イエスと釈迦の共通点は多いのです。厳しい山岳修行をしていること、当時の絶対的宗教(釈迦はバラモン教、イエスはユダヤ教)の墮落に抗して新宗教を始めた事、売春婦(釈迦は遊女アンババリー、イエスはマグダラのマリア)をも差別しないで更生させた事などです。

◆西欧先進国は後まわしになりましたが、東地中海・西地中海・北欧と歴史の古い順に回りました(⑰⑱⑲⑳)。

芭蕉の句に「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」がありますね。旅好きの人なら芭蕉の気持がわかるはずですが。彼はこの句を最後に自宅へ戻れず亡くなりました。

73歳になり「あと何年旅ができるか」と考えてしまいます。「旅先で野垂れ死んだら本望だ」と家内に言えば、「死体を持ち帰るのが大変だからやめて」とのたまいました。

⑨の旅の頃(2013年)、Facebookを知り、旅先から写真とその解説文を投稿し始めました。帰国後、費用を含め旅行記としてネット上で公開していきます。Google driveを開き、eji google driveで検索して下されば、私の過去の全旅行記をご覧いただけます。Facebookで見ているなら eji segawa に友達リクエストしてください。



旅行記